

【課題研究報告】

## 課題研究 I 学び方の教材化

馬野 範雄  
(大阪教育大学)

### 1 本稿の目的

新しい学習指導要領の改訂のポイントとして、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」とともに、「思考力・判断力・表現力等の育成」が挙げられている。また PISA の学力観では、キー・コンピテンシー（主たる資質・能力）として、「相互作用的に道具を用いる」「自律的に活動する」「異質な集団で交流する」という3点を示している。

これらの学力は、主体的な調べ学習によって事実を把握し、自分の考えを意識して交流し、互いに認め合い高め合ってはじめて育っていくと考えられる。しかし、よく見られる社会科の授業では、調べ学習に重点が置かれ、わかったことを発表しているが、子どもたちが意見を交流している姿を見ることは少ない。この実態を改善するには、調べ学習と意見交流の両立を意図した授業を開発していく必要がある。しかし、限られた時間の中で、多様な学習内容を、どのように授業として構成していくのか、そこには指導者の工夫が必要である。すなわち、調べる・考える・話し合うといった「学び方を学ぶ（方法知）」を重視した指導法の開発が求められているのである。

そこで、本課題別研究テーマでは、「学び方の教材化」と題して、優れた社会科授業を展開されている先生方の実践に学び、これからの授業や指導のあり方を探っていきたく考えた。

### 2 片岡万喜雄発表「多面的・多角的な見方・考え方を育てる歴史学習 一人々の思いから『大久保利通と明治維新』を考える学習を通して」の概要

本実践は、大久保利通の政治を通して、明治維新の状況を捉えさせようと考え、次のような中単元を構成している。

- i 明治維新の中心人物大久保利通②
- ii ペリーの来航と開国②
- iii 薩長同盟と大政奉還①
- iv 廃藩置県と四民平等①
- v 岩倉使節団と富国強兵①
- vi 大久保利通と西郷隆盛①
- vii 大久保利通の学習で学んだこと①

この学習を通して、子どもたちが「学び方を学ぶ」ために、次のような視点から活動の構成や指導の工夫を行っていた。

- (1) それぞれの学習において、自力活動（事実を調べる）と交流活動（考えを話し合う）を構成する。

例えば、第6時「廃藩置県と四民平等」の学習では、文書資料「ゆうたさんの大久保利通調べ」「四民平等」から政策の内容を調べ、その内容をもとに、当時の人々の思いを考えさせている。

- (2) ワークシートを活用して個の学習の成立を図るとともに、評価活動として位置づけ、子どもたちの見方・考え方の変容を捉える。

ワークシートに自分の考えを書いている間に教師は机間指導を行い、必要な子どもに助言を与えること（評価と指導の一体化）によって、個の学習の成立を図り、その考えを次のようなループリックを想定して記述内容を評価し、その変容を捉えていた。

- A…多様な見方・考え方や価値判断ができる。
- B…事実・事象の内容や意味がわかる。
- C…課題に対する記述ができない。

この実践を通して、Aの子ども数が、30名中5名から最大27名に増えていた。自分なりの見方・考え方ができるようになったきた現れだと考えられる。

### 3 井上博嗣発表「体験を組み入れた単元開発による社会認識の広がり —小学校における金銭・流通経済単元の実践から—」の概要

本実践は、総合的な学習の時間も活用し、3年生の子どもたちに、お金の仕組みや使い方を学習させ、さらに実際にマーケットを開くことを通して、お金に対する理解や社会のしくみを捉えさせようとして、次のような単元を構成している。

- i お金について考えよう①
- ii お金の仕組みを探ろう⑩
- iii お金の使い方について考えよう④
- iv お金と私たちの関わりを見つめよう③
- v 附小マーケットについて話し合おう①
- vi 附小マーケットの計画や準備をしよう⑫
- vii 附小マーケットを開こう⑦

この学習を通して、子どもたちに「消費者の立場」から、お金の意味やその活用の仕方を学ばせるために、次のような三つの体験活動を構成している。

- (1) お小遣いの管理
- (2) 買い物体験
- (3) 販売体験

この体験活動を通して、子どもたちはお金を媒介にした流通のしくみにふれ、利益を追求する経験をすることができた。3年生という発達段階のため、十分に深めることができなかった部分もあるが、体験活動を通してお金のはたらきや流通の仕組みについての理解し、消費者や販売者に対する見方・考え方を深めていた。

### 4 梶本久子発表「地域に学び、地域を愛する個が育つ社会科学習 —ひとり学習の充実と全体学習での磨き合いを通して—」の概要

本実践は、和歌山の町の政治に切実な願いをもち、政治の役割を理解することを目標とし、次のような単元の構成によって展開された。

- i 県議会に行こう①
- ii ハテナを県庁に質問に行こう①
- iii 他の公共施設も議会で決めているのかな①
- iv 県議会の役割を考えよう①
- v ぼくたちのまちづくりを考えよう④
- vi 一人調べをしよう②
- vii マニフェストをつくろう④

- viii マニフェストについて考えよう④
- ix 県の予算や税金について考えよう①
- x ぼくたちのまちづくりを考えよう②

本実践は、実際に和歌山県庁の各課に聞き取りに行ったり、一人暮らしの高齢者にインタビューをしたりするなど、ダイナミックな活動が展開されていた。このような調べ学習の中から、子どもたちが身近に感じた問題から、次のような政党を結成し、マニフェストを考え、その是非を討論していくのである。

- ① 教育・人づくり「教育応援党」
- ② 福祉・健康・高齢化問題「健康党」
- ③ 産業・農林水産業「生産農水林党」
- ④ 観光・環境「ECO!ニコ!観光党」
- ⑤ 安全・防災「安全第一党」

子どもたちの発言やワークシートの記述内容、各党で考え出してきたマニフェストの内容などから、子どもたちが県庁の職員やいろいろな市民からの聞き取りに基づいて、真剣にまちづくりについて考え、政治のしくみや役割についての理解を深めていることが伺えた。

### 5 指定討論者；北俊夫のコメントの概要

社会科における「学び方の教材化」とは、「教材を通して内容知と方法知の両立を図ることであり、生涯学習者の育成として重要であること」を確認した上で、私見として次のような学び方が重要であることをていねいに例示された。

- ① 調べ学習—観察・調査
- ② 言語活動—発表・報告・説明・討論・論文
- ③ 問題解決学習の方法
- ④ 演繹・帰納といった見方・考え方
- ⑤ 学習習慣 など

### 6 おわりに

「教材（資料）を教えるのではなく、教材（資料）で教えること」の重要性は再三語られてきた。今回、具体的な実践が紹介され、実践から理論につながるいくつかの道筋をが明らかにすることができた。「学び方の教材化—学び方を学ぶ」を具現化する研究・実践がますます広がっていくことを期待したい。